

情報通信審議会 情報通信技術分科会 局所吸収指針委員会(第1回)議事要旨(案)

- 1 日時
平成21年8月24日(月) 10時00分～11時30分
- 2 場所
第1特別会議室(総務省8階)
- 3 出席者(敬称略)
 - (1) 構成員
安藤 真(主査)、多氣 昌生(主査代理)、池田 澄子、上野 照剛、
小倉 紳治(代理 山崎 潤)、熊田 亜紀子、白井 智之、
田中 謙治(代理 篠塚 隆)、野島 俊雄、波多野 睦子、福永 香、
本多 美雄、渡邊 聡一
 - (2) 事務局
岡野 直樹(電波環境課長)、齊藤 康弘(電波環境課長補佐)
- 4 議事
 - (1) 情報通信審議会情報通信技術分科会への諮問並びに委員会の所掌及び組織等について事務局より資料1-1に基づき説明があった。
 - (2) 局所吸収指針委員会の運営方法及び作業班の設置について資料1-2に基づき説明があり承認された。また、主査代理として多氣専門委員、局所吸収指針作業班の主任として多氣専門委員、比吸収率測定方法作業班の主任として渡邊専門委員が指名された。
 - (3) 局所吸収指針の概要について事務局より資料1-3に基づき説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

安藤 主査：ICNIRPガイドラインでは10GHzまでの比吸収率の規格があるが、我が国では10GHzまでの規格は整備されているか。

事務局：IECにおいて、現在のところ3GHzまでの測定方法が国際標準化されている。このため、我が国では3GHzまでの測定方法が答申されている。
 - (4) 比吸収率(SAR)測定方法の概要について渡邊専門委員より資料1-4に基づき説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

白井専門委員：SAR測定方法については、精度±0.2mm以下等と精緻な部分がある一方で、ファントムの中に液体を入れて測定するなど精緻とはいえない部分がある。実際は、頭蓋骨厚や皮膚厚などがあり、脳の位置は耳より上にあり耳の奥に脳はないなど複

雑になっている。

渡邊専門委員：局所SARは皮膚表面で最大となり、脳内のSARは十分に低くなっている。人体の様々な組織の電気定数の構造を考慮し、最も安全な評価が出来るようになっている。

上野専門委員：研究の分野では、三半規管まで考慮してきめ細かく計算している研究者がいるが、安全性の評価をするガイドラインという点では、現在の方法で良いと思う。SAMファントム（人体頭部ファントム）は、子供も考慮されているか。

渡邊専門委員：数年前FDA（米国医薬食品局）が中心となり、評価を行った結果、SAMファントムを使えば小児ファントムより安全な評価が出来ることがわかっている。

野島専門委員：SAR測定方法について、IEEEでは、3GHz以上は照射電力密度とする話を聞いているがどうであるか。

渡邊専門委員：6GHzまでSARを適用可能としている。照射電力密度を測定するのが困難であるためではないか。

多氣専門委員：ガイドラインとは、あくまでも安全性の評価をするための基準値を示すものである。リスクアセスメントとリスクマネジメントを分けて考えることが重要。

野島専門委員：今回の答申の範囲は、どこまで高い周波数を対象とするか。また、携帯電話端末以外の無線設備も対象となるということで良いか。

事務局：対象周波数について、適切な周波数の範囲をご審議いただき、ご答申いただきたい。また、携帯電話に限定せず、ご審議いただきたい。

（２） 審議スケジュールについて

事務局より、資料１－５に基づき審議スケジュール(案)について説明があり了承された。

（３） その他

第２回委員会の開催日程は別途調整の上、事務局より連絡することとなった。

【配付資料】

資料１－１ 諮問書並びに委員会の所掌及び組織等

資料１－２ 局所吸収指針委員会運営方法（案）及び作業班の設置（案）について

資料１－３ 局所吸収指針の概要について

資料１－４ 比吸収率（SAR）測定方法の概要について

資料１－５ 審議スケジュール（案）について